

こすもす便り

第1号 (2016年11月)

◇保護者の皆さまへのお知らせ紙です◇

★ご挨拶 このお便りは、今月から毎月発行しますのでご意見などをどしどしお寄せください

★こすもすの支援

子ども達に目的を持った関わりを長時間にわたって行うには相当なエネルギーが必要です。ということは子ども達も同じようにずいぶんとエネルギーを使う訳です。

初めての場所で、初めて会う仲間やスタッフに慣れるのにもエネルギーを使ったことでしょう。でも慣れてからは、楽しみながら上手にエネルギーを使うことが出来るようになります。

こすもすでは一人ひとりの目標を視野に入れた支援を行っていますが、目標に焦点を絞って「めざす」という指導ではなく、皆と一緒に様々な活動や遊びを楽しみながら「過ごす」ことを大事にしていき、せめぎ合いや仲直りの経験を重ね、必要なサポートで、課題をクリアしていき、子どもたちは、自然に社会性を身につけていきます。

大人同士が共に依存しつつ主体的であるように、子どもと大人の関係も相互に依存しつつ相互に主体的であることを認める必要があります。「教えたい」という大人の論理からだけではなく、大人に求めている子どもの論理をどのように受け止めるのかが私たちの課題です。しかし、思いのずれはある方がいいのです。ずれの部分でお互いの主体性が確認でき、新しい視点が生まれるのですから。それが子ども達から教えられるということです。

私たちは子ども達との出会いに感謝し、楽しく過ごさせていただいています。

★11月の取り組み

宮崎の日差しが思いの外強く3月に計画していた園芸が思うように行きませんでした。このことを踏まえて、春の花や野菜の苗などは早めに準備を始めています。

11月からはこれまで制作した折り紙や工作物を共同制作としてみんなでまとめていくことにしました。1日のうち30分程度は毎日このような活動を行っていく予定です。

活動名を「アートプロジェクトA」「アートプロジェクトB」「工作」の3本立てとし、設定遊びは活動予定表の内容で継続して行きます。設定遊びは興味・関心の広がりとして設定していますが、子どもたちは思いの外早い段階で、自由遊びの中に取り入れて広がりを見せています。気に入った遊びだけでなく、やってみなければわからないものも提供してきましたが、喜ばしいことに大人の意図しない部分に興味を持ってくれることに驚きとやりがいを実感させていただいています。今では、「今日の設定は何？」と子ども達から聞いてきます。説明すると「やりたくない」「嫌だ」「つまんなさそう」などと「何かひとこと」を言いながらも、参加してくれるようになりました。すると職員の意図を超えた発想で楽しみ方を見つけ、その後の自由遊びにも取り入れてくれる訳です。子どもって本当に未知の力を隠し持っているのですね。二度とない子ども時代のこの時間は思い切り「感動」という体験で心を満たしてほしいと願っています。

大人の「教えたいこと」を子ども達自身からの「教えてほしいこと」「知りたいこと」にうまく

繋ぐとスポンジが水を吸い上げるように吸収するものです。興味・関心の広がりです。たくさん知りたいことが出てくることは、問題解決の力が育っていくことでもあります。大人の凝り固まった発想力だけでは子ども達について行けません。だからスタッフはそれに応えられる柔らかく頭を鍛えていきます。

★スタッフの服装について

制服には意味があります。たとえば役割を知らせたい職業としては警察官、消防士、医師など一目で何をする人かをわかってもらうことに有効です。人に安心感を与えるなどそれぞれの目的に合った方法で活用出来るもので、制服を信じて身をゆだねることは生活する上で結構多いものです。しかし、色やロゴなど一目でわかることは確かに安心感には繋がるでしょうが、私たちはスタッフを目印ではなく一人ひとりの個性に注目してもらいコミュニケーションの対象であることを大事にしていきたいと考えています。

私たちは誰かと会うときに会う人のことをイメージしながら何を着て行こうかと考えませんか？誰と会うのかを考えながら服装を選ぶことで、そこに子ども達の姿が見えます。支援はそこから始まっていると考えています。いつも同じではないことで何かを感じ、創造性を司る右脳が未知の何かを感じることもあるかもしれません。小さな気づきを大事にしたいのです。

服装は自分らしさを表現する方法のひとつ。自分らしさを大切にしなければ、子ども達それぞれの「らしさ」を理解するのは難しいかもしれません。あるスタッフは「キティーちゃん」が好きなことを、服装に隠された小さなヒントで子ども達に気づかれました。

子ども達の好みにもそのくらい興味を持ちながら信頼関係を深めて参りたいと考えています。外出先で目印として着用することも考えられるでしょうが、社会性、当たり前の生活に繋がることを考えると、むしろ街中での目印は控えたいのです。

「みんな同じ」はこすもすには似合いません。そのような理由で積極的に制服を着用していませんが、常に清潔を心がけ、子ども達と共にいる「気持ち」が制服だと想像していただければ嬉しく思います。